# 第59回シンポジウム開催にあたって

今年の開催時期はカレンダーの関係から，センター入試の日程もあって，いつもより 1〜2 週間遅くなった．参加者の皆さんにご迷惑をおかけした．申し訳なく思う．

ところで昨今は医療関係における診断システム，自動車の自動運転，囲碁・将棋などのゲームにおける深層学習など人工知能 (Artificial Intelligence, AI) を役立たせたものが多く出てきた．思い起こせば，AI という言葉は 1956 年に決まり，ジョン・マッカーシーがスタンフォード人工知能研究所を作ったのは確か 1963 年，前回の東京オリンピックの前年であったと思う．半世紀以上をかけて研究の段階から実用の段階に入ってきたのだと感じる．ニューラルネットワークの歴史はもう少し前，第二次世界大戦の終わりごろからあった．しかし，メモリの大きさを含めた計算機の能力の限界があって，なかなか難しいものがあったのだと思う．しかし，ディープラーニングによってブームがきた．

ロボットの発展も目覚ましいものがある．この方面で心配なのは無人戦闘機である．無人戦闘機の行動が完全に自動化されていなくても，遠く離れたところからの操縦によって行われるのなら操縦者の身は安全だから，戦闘，すなわち戦争，が行われる可能性が高くなるからだ．最近の北朝鮮による，核実験，ミサイル実験も不気味なものだ．偶発的に戦争が始まる可能性があり．そのようなことが起きると悲惨なことになる．悲惨なことといえば，原発事故もある．昨年 12 月 13 日，伊方原発 3 号機について，広島高裁が運転差し止めの決定をした．阿蘇噴火，火砕流の危険を指摘したのだ．こちらは AI とかプログラミングと無関係な話だが．

話をニューラルネットワークに戻そう．学習によって性能をよくするのは非常によいことかもしれないが，実際ニューラルネットワークの中で何がおきているのかよくわかるのだろうか．それに比べて，実際にどのように動作させるかのアルゴリズムをプログラムするときは明快である．本来，このシンポジウムはそのようなことをやって，プログラミングの夢を語り、また切磋琢磨するために開催されてきたのだと私は思っている．皆さんの活発な意見交換を期待したい．

幹事団の皆さんに開催準備を的確にやっていただいた．ここでお礼申しあげる．なお，幹事長の岩崎さんはこのシンポジウムで交代する予定である．また，幹事の山田さんも交代の予定である．長いことご苦労様でした．

2018 年 1 月

委員長　辻　尚史